

事業所名

児童発達支援事業所 Tossie

支援プログラム

作成日

2026年

4月

1日

法人（事業所）理念	法人理念 (1)わらしこに関わる全ての人々の安心と健全な生活を目指し、人間尊重を第一の理念とする。 (2)子どもの権利を常に追求し、子どもの権利を譲り発展させ、子どもの最善の利益に沿うことを第二の理念とする。 (3)地域とともに歩み、地域において最善の子育て環境を整える上で役割を果たすことを第三の理念とする。		
支援方針	日々の積み重ねにより主体的に生活していく力をつけていく。		
営業時間	9時	0分から	15時0分まで
	送迎実施の有無	なし	
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	適度な運動、栄養のある食事、午前中の疲れを癒やすお昼寝などを繰り返し送ることで、規則正しい生活リズムを身につける。そのサイクルがご家庭での安定した生活リズムに繋がっていく。また、生活リズムを整えることで、睡眠リズムの安定を図る。 また、外あそびや入浴など生活環境の中で、自律神経を鍛え、免疫力を高める。	
	運動・感覚	散歩先への歩行、リズムあそび、雑巾がけなど日常的に全身運動をおこなうことで体幹を育てる。 外気に触れることで五感を刺激し、脳の発育を促す。 日常的に15分～30分ほどの歩行をおこなうことで、脳の前頭前野を刺激し、発育（行動や感情を抑制する機能）を促す。 生活動作やあそびの中で手や足の使い方、力の入れ方などボディイメージを育てる。 粘土あそびや泥遊びなど様々な触感を経験することで手の発育を促す。また定期的にあそびに取り入れることで過敏性・鈍麻性の緩和を目指す。 午前活動でからだをたくさん動かすことにより、食べる意欲、適度な睡眠につなげ、規則正しい生活リズムの形成を図っていく。 布パンツで過ごすことで、快・不快を感じながら五感を養う。	
	認知・行動	感触あそび（粘土や泥、砂、水など）を通して、物質が変化していく過程や冷たいものを触り続けることで温くなる温度の変化を感じ認知を深める。 また触覚を刺激しながら、手足の発育を促す。 日常的に散歩を行う中で、季節の移り変わりともに変化する葉や生き物を観察し、季節の景色や匂いを味わう経験を積む。 散歩の中で、交通ルールを確認し、車に対する危険認知を高める。 ボールあそびやアスレチックなどの外あそびやタオルかけや洋服を畳むなどの生活動作を通し、空間認知能力を高めていく。	
	言語 コミュニケーション	職員やお友だちと生活する中で、気持ちを共感する喜びや理解される安心感を実感する。 言葉や指差し、身振りなど様々なコミュニケーションツールを通して、気持ちを表す経験を積む。 生活を通して、気持ちを伝えたいという意欲を育てる。 日常的に歩行をおこなうことで、発語に必要な顎周りの筋肉を刺激させ、口腔機能の発達につなげ、発語の明瞭化を促す。	
	人間関係 社会性	生活を通して、職員やお友だちと関係性を深め、人と触れ合う心地よさを知っていく。 自分の主張を伝えたり、相手の気持ちを受け入れたりなど、人との関わり方を学んでいく。 あそびを通して、順番や物の貸し借りなど社会ルールを学んでいく。その際必要となる行動や感情を抑制する機能を育てる為、活動の中で運動の機会を提供し脳の前頭前野を刺激していく。 不定期でおこなわれる音の集いや親子遠足、わらしこ保育園体験などを通し、普段とは異なる活動や集団の動きを経験する。	
家族支援	規則正しい生活リズムを身につけることで、ご家庭での安定した生活リズムに繋げていく。 保護者会や給食試食会、就学相談会など保護者が集う機会を定期的に設け、児童の情報共有や支援の理解を深める。また保護者同士の交流の活性化を図る。	移行支援	音の集いや親子遠足など普段とは異なる活動を通して集団の動きや場所に慣れていく。 わらしこ保育園体験など普段とは異なる生活を通して、周囲から刺激を受けたり、集団生活を経験していく。 活動を通して、楽器演奏者や施設の職員、わらしこ保育園職員、園児達とコミュニケーションを図り社会性を身につけていく。
地域支援・地域連携	他施設や他サービスを併用している児童について定期的に関係機関と連携をとることで児童の情報共有を図る。情報に基づき日々の支援に活かしていく。	職員の質の向上	週に1回職員ミーティングを行い、児童の情報共有を図っている。 月に1回内部研修を行い学びを深めている。 不定期で外部研修に任意で参加し知識を深めている。 Eラーニングを活用し、知識を深めている。
主な行事等	お誕生日会、お正月あそび、節分、ひなまつり、子どもの日の集い、七夕の会、プール遊び、お月見の会、芋煮会（材料買い出しと調理）、お楽しみ会、親子遠足 保護者会、給食試食会、就学相談会、避難訓練、個人面談		